

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人城西大学

(2) 大学名

城西国際大学

(3) 大学の位置

〒283-8555
千葉県東金市求名1番地

- (注)・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ミスタ ノリコ) 水田 宗子 (平成16年5月)	(ウエハラ アキラ) 上原 明 (平成29年9月)	平成28年11月30日辞任(29) 平成29年9月11日から上原明が理事長に就任(30)
理事長代理		(オノモトユキ) 小野元之 (平成28年12月)	理事長辞任に伴い、平成28年12月1日から小野元之が理事長代理に就任(29) 理事長の就任に伴い、当該職位を廃止(30)
学長	(ヤナギサワ ハクオ) 柳澤 伯夫 (平成22年4月)	(スギバヤシ ケンジ) 杉林 堅次 (平成29年4月)	前任者辞任に伴い、平成29年4月1日から杉林堅次が学長に就任(29)
学部長	(イノウエ トシアキ) 井上 敏昭 (平成28年4月)		
学科長等	(ヤナギサワ ケン) 柳澤 健 (平成28年4月)		

- (注)・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例)平成29年度に報告済の内容 (29)

平成30年度に報告する内容 (30)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注)・当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・なお, 課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は, 法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください)。
 ・様式は, 平成27年度開設の4年制の学科の場合(平成30年度までの4年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が3年以下の場合には欄を削除し, 5年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
福祉総合学部 理学療法学科 学士(理学療法)	保健衛生学関係(リハビリテーション関係)	4年	80人	- 年次人	320人	

- (注)・定員を変更した場合は, 「備考」に変更前的人数, 変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・学生募集停止を予定している場合は, 「備考」にその旨記載してください。
 ・「学位又は学科の分野」には, 「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	80人 () []	80人 () []	80人 () []	80人 () []	80人 () []	80人 () []	80人 () []	80人 () []	1.00倍	
志願者数	163 () [0]	() () []	223 () [0]	() () []	237 () [0]	() () []	() () []	() () []		
受験者数	162 () [0]	() () []	217 () [0]	() () []	227 () [0]	() () []	() () []	() () []		
合格者数	123 () [0]	() () []	157 () [0]	() () []	190 () [0]	() () []	() () []	() () []		
B 入学者数	82 () [0]	() () []	69 () [0]	() () []	91 () [0]	() () []	() () []	() () []		
入学定員超過率 B / A	1.02		0.86		1.13					

- (注)・数字は, 平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
 ・()内には, 編入学の状況について外数で記入してください。なお, 編入学を複数年次で行っている場合には, (())書きとするなどし, その旨を「備考」に付記してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・[]内には, 留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 ・転入学生は記入しないでください。
 ・学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。
 ・「入学定員超過率」については, 各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出してください。なお, 計算の際は小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで記入してください。
 ・「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。

(5) - 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	82 [-] (-)	0 [-] (-)	69 [-] (-)	0 [-] (-)	91 [-] (-)	0 [-] (-)			
2年次	/		79 [-] (-)	0 [-] (-)	67 [-] (-)	0 [-] (-)			
3年次			/				70 [-] (-)	0 [-] (-)	
4年次	/								[] [] () ()
計			82 [-] (-)	148 [-] (-)	228 [-] (-)				

- (注) ・ 数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ []内には、留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。

(5) - 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由
			入学した年度	退学者数	退学者数のうち留学生数	
平成28年度	82 人	3 人	平成28年度	3 人	0 人	就学意欲の低下(3人)
平成29年度	148 人	11 人	平成28年度	9 人	0 人	就学意欲の低下(2人)、他の教育機関への入学・転学(7人)
			平成29年度	2 人	0 人	就学意欲の低下(1人)、他の教育機関への入学・転学(1人)
平成30年度	228 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
平成31年度	0 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			平成31年度	0 人	0 人	
合 計	458 人	14 人				

(注)・数字は、平成30年5月1日現在の数字を記入してください。

- 各年度の在学者数については、該当年度に在学した人数を記入してください。〔途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。〕
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数や退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- 短期交換留学生など、定員内に含まれていない学生については記入しないでください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下（人）」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数 (a)}}{\text{平成28年度の在学者数 (b)}} = \frac{3}{82} = \boxed{3.65} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数 (a)}}{\text{平成29年度の在学者数 (b)}} = \frac{11}{148} = \boxed{7.43} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数 (a)}}{\text{平成30年度の在学者数 (b)}} = \frac{0}{228} = \boxed{0} \%$$

【平成31年度】

$$\frac{\text{平成31年度の退学者数 (a)}}{\text{平成31年度の在学者数 (b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<福祉総合学部 理学療法学科>

(1) - 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
学科共通科目群 (国際性を身につける)	Fundamentals of English	1前	2								兼3
	Fundamentals of English	2前		2							兼1
	Oral Fluency	1後	2								兼3
	Oral Fluency	2後		2							兼1
	中国語 A	1・2前		2							兼1
	中国語 B	1・2後		2							兼1
	韓国語 A	1・2前		2							兼1
	韓国語 B	1・2後		2							兼1
	ハンガリー語 A	1・2前		2							兼1
	ハンガリー語 B	1・2後		2							兼1
	ポーランド語 A	1・2前		2							兼1
	ポーランド語 B	1・2後		2							兼1
	チェコ語 A	1・2前		2							兼1
	チェコ語 B	1・2後		2							兼1
	異文化理解	1後		2							兼1
国際交流論	1後		2							兼1	
国際交流・協力実践	2前		2							兼1	
理学療法海外研修	1後	1			2						
世界の中の日本	2・3前		2							兼1	
グローバル研修	2・3後		2							兼1	
学科共通科目群 (科学的思考の基礎)	基礎物理学	1前	1								兼1
	基礎生物学	1前		1							兼1
	人間学	1後		2							兼1
	女性福祉論	3後		2							兼1
	社会学	1後		2		1					
	心理学	1前		2							兼1
	医療倫理学	1前	2								兼1
	統計学	1前	2								兼1
	情報リテラシー演習	1後	1								兼2
	ジェンダー論	3前		2							兼1
	コミュニケーションの基礎	1前		2							兼1
	生涯スポーツ概論	3前		2							兼1
	死生学	4後		2							兼1
専門基礎科目群 (人体の構造と機能及び心身の発達)	人体の構造	1前	2								兼1
	人体の構造	1後	2								兼1
	人体の構造演習	1後	1								兼1
	人体の機能	1前	2								兼1
	人体の機能	1後	2								兼1
	人体の機能演習	1後	1								兼1
	運動学	1後	2		1						
	運動学	2前	2					1			
	運動学実習	2後	1		4	1		6			
	人間発達学	1前		1							兼1
	臨床心理学	2前		1							
専門基礎科目群 (疾病と障害の成りたち及び回復過程の促進)	リハビリテーション科学	1後	1			1					兼1
	整形外科学	2前	4								兼1
	内科学	2前	4								兼1
	精神医学	2後	1								兼1
	画像診断学	4前	1								兼1
	公衆衛生学	2後	1								兼1

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
学科共通科目群 (国際性を身につける)	Fundamentals of English	1前	2								兼3
	Fundamentals of English	2前		2							兼1
	Oral Fluency	1後	2								兼3
	Oral Fluency	2後		2							兼1
	中国語 A	1・2前		2							兼1
	中国語 B	1・2後		2							兼1
	韓国語 A	1・2前		2							兼1
	韓国語 B	1・2後		2							兼2
	ハンガリー語 A	1・2前		2							兼1
	ハンガリー語 B	1・2後		2							兼1
	ポーランド語 A	1・2前		2							兼1
	ポーランド語 B	1・2後		2							兼1
	チェコ語 A	1・2前		2							兼1
	チェコ語 B	1・2後		2							兼1
	異文化理解	1後		2							兼1
国際交流論	1後		2							兼1	
国際交流・協力実践	2前		2							兼1	
理学療法海外研修	1後	1					2				
世界の中の日本	2・3前		2							兼1	
グローバル研修	2・3後		2							兼1	
学科共通科目群 (科学的思考の基礎)	基礎物理学	1前	1								兼1
	基礎生物学	1前		1							兼1
	人間学	1後		2							兼1
	女性福祉論	3後		2							兼1
	社会学	1後		2			1				
	心理学	1前		2							兼1
	医療倫理学	1前	2								兼1
	統計学	1前	2								兼1
	情報リテラシー演習	1後	1								兼2
	ジェンダー論	3前		2							兼1
	コミュニケーションの基礎	1前		2							兼1
	生涯スポーツ概論	3前		2							兼1
	死生学	4後		2							兼1
専門基礎科目群 (人体の構造と機能及び心身の発達)	人体の構造	1前	2								兼1
	人体の構造	1後	2								兼1
	人体の構造演習	1後	1								兼1
	人体の機能	1前	2								兼1
	人体の機能	1後	2								兼1
	人体の機能演習	1後	1								兼1
	運動学	1後	2		1						
	運動学	2前	2						1		
	運動学実習	2後	1		4	1		7			
	人間発達学	1前		1							兼1
	臨床心理学	2前		1							
専門基礎科目群 (疾病と障害の成りたち及び回復過程の促進)	リハビリテーション科学	1後	1			1					兼1
	整形外科学	2前	4								兼1
	内科学	2前	4								兼1
	精神医学	2後	1								兼1
	画像診断学	4前	1								兼1
	公衆衛生学	2後	1								兼1

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任				
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門基礎科目群	(保健医療福祉とリハビリテーションの理念) リハビリテーション概論 保健医療福祉概論 スポーツ理学療法概論	1前	1			1									
		2前	1			1									
		3前	1			1									
専門基礎科目群	(薬学・福祉・看護) 薬学概論 看護学概論 福祉学概論 生活支援福祉機器 福祉まちづくり論 チーム医療 多職種間連携教育	3後		1								兼1			
		3後		1								兼1			
		3前	1			1									
		3前	1			1									
		4後		2		1									
		4後	1			1				1					
		3後	1								1				
専門科目群	(基礎理学療法) 理学療法概論 職業倫理管理学 作業療法概論 言語聴覚治療学概論 理学療法研究法 リハビリテーション工学 世界の理学療法 医療統計学 卒業研究	1前	1			1									
		4後		1		1									
		1後	1			1									
		1後	1			1									
		3後	1			1									
		4後	1			1				1					
		4後	1			1				2					
専門科目群	(理学療法評価学) 理学療法評価学 理学療法評価学実習 理学療法評価学実習 生体信号解析学	1後	1						1						
		1後	1						2						
		2前	1						1						
		2前	1						3						
		2前	1												
		4後	1			1									
		専門科目群	(理学療法治療学) 運動療法学 運動療法学実習 日常生活活動学 日常生活活動学実習 骨・関節系理学療法 骨・関節系理学療法実習 理学療法機器技術学 義肢補装具学 義肢補装具学実習 中枢神経系理学療法 中枢神経系理学療法実習 呼吸・循環系理学療法 呼吸・循環系理学療法実習 物理療法学 物理療法学実習 徒手技術学 小児系理学療法 小児系理学療法実習 スポーツ系理学療法 理学療法セミナー 理学療法セミナー	2前	2			1							
				2前	1			1				3			
				2後	1			1							
				2後	1			1				2			
2前	2					1									
2前	1					1				2					
2後	1					1									
2後	1					1									
3前	1					1				1					
3前	1					1									
2後	2					1									
3前	1					2				2					
2後	1					1				2					
3前	1			1				2							
3前	1			1											
3前	1			2				1							
3前	1			1											
3後	2			1											
2後	1			1											
3前	1			1											
3後	2			1											
2後	1			1											
3後	1			1				6							
3後	1			1				6							
専門科目群	(地域理学療法) 福祉と健康増進 地域理学療法 福祉理学療法	4後	1			1									
		4前	2			1									
		3前	1			1									
専門科目群	(臨床実習) 理学療法総合演習 理学療法総合演習 理学療法評価学臨床実習 総合臨床実習 総合臨床実習	4前	1			1	1			4					
		4後	2			1	1			4					
		2後	3			5	1			6					
		3後	8			5	1			6					
		4前	5			5	1			6					

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任				
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門基礎科目群	(保健医療福祉とリハビリテーションの理念) リハビリテーション概論 保健医療福祉概論 スポーツ理学療法概論	1前	1			1									
		2前	1			1						兼1			
		3前	1			1									
専門基礎科目群	(薬学・福祉・看護) 薬学概論 看護学概論 福祉学概論 生活支援福祉機器 福祉まちづくり論 チーム医療 多職種間連携教育	3後		1								兼1			
		3後		1								兼1			
		3前	1			1						兼1			
		3前	1			1									
		4後		2		1									
		4後	1			1									
		3後	1								1				
専門科目群	(基礎理学療法) 理学療法概論 職業倫理管理学 作業療法概論 言語聴覚治療学概論 理学療法研究法 リハビリテーション工学 世界の理学療法 医療統計学 卒業研究	1前	1			1									
		4後		1		1									
		1後	1			1									
		1後	1			1									
		3後	1			1									
		4後	1			1					1				
		4後	1			1				1					
専門科目群	(理学療法評価学) 理学療法評価学 理学療法評価学実習 理学療法評価学実習 生体信号解析学	1後	1						1						
		1後	1						2						
		2前	1						1						
		2前	1						3						
		2前	1												
		4後	1			1									
		専門科目群	(理学療法治療学) 運動療法学 運動療法学実習 日常生活活動学 日常生活活動学実習 骨・関節系理学療法 骨・関節系理学療法実習 理学療法機器技術学 義肢補装具学 義肢補装具学実習 中枢神経系理学療法 中枢神経系理学療法実習 呼吸・循環系理学療法 呼吸・循環系理学療法実習 物理療法学 物理療法学実習 徒手技術学 小児系理学療法 小児系理学療法実習 スポーツ系理学療法 理学療法セミナー 理学療法セミナー	2前	2			1							
				2前	1			1					3		
				2後	1			1							
				2後	1			1						2	
2後	1					1									
2前	2					1									
2前	1					1									
2後	1					1									
2後	1					1									
3前	1					1									
2後	1					1									
3前	1					1									
3前	1					1									
3前	1			2				1							
3前	1			1				2							
2後	1			1											
3前	1			1											
3前	1			1											
3前	1			1											
3前	1			1											
3後	2			1											
2後	1			1											
3前	1			1											
3前	1			1											
3後	2			1											
2後	1			1											
3後	1			1											
専門科目群	(臨床実習) 理学療法総合演習 理学療法総合演習 理学療法評価学臨床実習 総合臨床実習 総合臨床実習	4前	1			1	1								
		4後	2			1	1								
		2後	3			5	1								
		3後	8			5	1								
		4前	5			5	1								

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
学科共通科目群 (国際性を身につける)	Fundamentals of English	1前	2								兼3
	Fundamentals of English	2前		2							兼1
	Oral Fluency	1後	2								兼3
	Oral Fluency	2後		2							兼1
	中国語 A	1・2前		2							兼1
	中国語 B	1・2後		2							兼1
	韓国語 A	1・2前		2							兼1
	韓国語 B	1・2後		2							兼2
	ハンガリー語 A	1・2前		2							兼1
	ハンガリー語 B	1・2後		2							兼1
	ポーランド語 A	1・2前		2							兼1
	ポーランド語 B	1・2後		2							兼1
	チェコ語 A	1・2前		2							兼1
	チェコ語 B	1・2後		2							兼1
	異文化理解	1後		2							兼1
国際交流論	1後		2							兼1	
国際交流・協力実践	2前		2							兼1	
理学療法海外研修	1後	1			2						
世界の中の日本	2・3後		2							兼1	
グローバル研修	2・3後		2							兼1	
学科共通科目群 (科学的思考の基礎)	基礎物理学	1前	1								兼1
	基礎生物学	1前		1							兼1
	人間学	1後		2							兼1
	女性福祉論	3後		2							兼1
	社会学	1後		2		1					
	心理学	1前		2							兼1
	医療倫理学	1前	2								兼1
	統計学	1前	2								兼1
	情報リテラシー演習	1後	1								兼2
	ジェンダー論	3前		2							兼1
	コミュニケーションの基礎	1前		2							兼1
	生涯スポーツ概論	3前		2							兼1
	死生学	4後		2							兼1
専門基礎科目群 (人体の構造と機能及び心身の発達)	人体の構造	1前	2								兼1
	人体の構造	1後	2								兼1
	人体の構造演習	1後	1								兼1
	人体の機能	1前	2								兼1
	人体の機能	1後	2								兼1
	人体の機能演習	1後	1								兼1
	運動学	1後	2			1					
	運動学	2前	2						1		
	運動学実習	2後	1			4	1		6		
	人間発達学	1前		1							兼1
臨床心理学	2前		1								
専門基礎科目群 (疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進)	リハビリテーション科学	1後	1			1					兼1
	整形外科学	2前	4								兼1
	内科学	2前	4								兼1
	精神医学	2後	1								兼1
	画像診断学	4前	1								兼1
	公衆衛生学	2後	1								兼1

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
学科共通科目群 (国際性を身につける)	Fundamentals of English	1前	2								兼3
	Fundamentals of English	2前		2							兼1
	Oral Fluency	1後	2								兼3
	Oral Fluency	2後		2							兼1
	中国語 A	1・2前		2							兼1
	中国語 B	1・2後		2							兼1
	韓国語 A	1・2前		2							兼1
	韓国語 B	1・2後		2							兼2
	ハンガリー語 A	1・2前		2							兼1
	ハンガリー語 B	1・2後		2							兼1
	ポーランド語 A	1・2前		2							兼1
	ポーランド語 B	1・2後		2							兼1
	チェコ語 A	1・2前		2							兼1
	チェコ語 B	1・2後		2							兼1
	異文化理解	1後		2							兼1
国際交流論	1後		2							兼1	
国際交流・協力実践	2前		2							兼1	
理学療法海外研修	1後	1					2				
世界の中の日本	2・3前		2							兼1	
グローバル研修	2・3後		2							兼1	
学科共通科目群 (科学的思考の基礎)	基礎物理学	1前	1								兼1
	基礎生物学	1前		1							兼1
	人間学	1後		2							兼1
	女性福祉論	3後		2							兼1
	社会学	1後		2			1				
	心理学	1前		2							兼1
	医療倫理学	1前	2								兼1
	統計学	1前	2								兼1
	情報リテラシー演習	1後	1								兼2
	ジェンダー論	3前		2							兼1
	コミュニケーションの基礎	1前		2							兼1
	生涯スポーツ概論	3前		2							兼1
	死生学	4後		2							兼1
専門基礎科目群 (人体の構造と機能及び心身の発達)	人体の構造	1前	2								兼1
	人体の構造	1後	2								兼1
	人体の構造演習	1後	1								兼1
	人体の機能	1前	2								兼1
	人体の機能	1後	2								兼1
	人体の機能演習	1後	1								兼1
	運動学	1後	2			1					
	運動学	2前	2						1		
	運動学実習	2後	1			4	1		8		
	人間発達学	1前		1							兼1
臨床心理学	2前		1								
専門基礎科目群 (疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進)	リハビリテーション科学	1後	1			1					兼1
	整形外科学	2前	4								兼1
	内科学	2前	4								兼1
	精神医学	2後	1								兼1
	画像診断学	4前	1								兼1
	公衆衛生学	2後	1								兼1

【平成28年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目群 (保健医療福祉とリハビリテーションの理念)	リハビリテーション概論	1前	1			1						
	保健医療福祉概論	2前	1			1						
	スポーツ理学療法学概論	3前	1				1					
	(薬学・福祉・看護)	薬学概論	3後		1							兼1
		看護学概論	3後		1							兼1
		福祉学概論	3前	1			1					
		生活支援福祉機器	3前	1			1					
		福祉まちづくり論	4後		2		1					
		チーム医療	4後	1			1					
		多職種間連携教育	3後	1					1			
専門科目群 (基礎理学療法学)	理学療法学概論	1前	1			1					兼1	
	職業倫理管理学	4後		1		1					兼1	
	作業療法学概論	1後		1							兼1	
	言語聴覚治療学概論	1後		1							兼1	
	理学療法研究法	3後	1			1					兼1	
	リハビリテーション工学	4後		1		1				1		
	世界の理学療法	4後	1								1	
	医療統計学	4後		1		1					2	
	卒業研究	4後		4		2	1				2	
	専門科目群 (理学療法評価学)	理学療法評価学	1後	1						1		
理学療法評価学実習		1後	1						2			
理学療法評価学		2前	1						1			
理学療法評価学実習		2前	1						3			
生体信号解析学		4後	1			1						
専門科目群 (理学療法治療学)		運動療法学	2前	2			1					
		運動療法学実習	2前	1			1			3		
		日常生活活動学	2後	1			1					
		日常生活活動学実習	2後	1			1			2		
		骨・関節系理学療法学	2前	2			1					
	骨・関節系理学療法学実習	2前	1			1			3			
	理学療法機器技術学	2後	1			1						
	義肢補装具学	2後	1						1			
	義肢補装具学実習	3前	1						1			
	中枢神経系理学療法学	2後	2			1						
	中枢神経系理学療法学実習	3前	1			2			2			
	呼吸・循環系理学療法学	2後	1						2			
	呼吸・循環系理学療法学実習	3前	1						2			
	物理療法学	3前	1			1						
	物理療法学実習	3前	1			2			1			
徒手技術学	3後	2			1				1			
小児系理学療法学	2後	1						1				
小児系理学療法学実習	3前	1			1			1				
スポーツ系理学療法学	3後	2			1			1				
理学療法学セミナー	2後	1			1			6				
理学療法学セミナー	3後	1			1			6				
専門科目群 (地域理学療法学)	福祉と健康増進	4後	1			1						
	地域理学療法学	4前	2			1						
	福祉理学療法学	3前	1			1						
専門科目群 (臨床実習)	理学療法学総合演習	4前	1			1	1		4			
	理学療法学総合演習	4後	2			1	1		4			
	理学療法評価学臨床実習	2後	3			5	1		6			
	総合臨床実習	3後	8			5	1		6			
	総合臨床実習	4前	5			5	1		6			

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門基礎科目群 (保健医療福祉とリハビリテーションの理念)	リハビリテーション概論	1前	1			1						
	保健医療福祉概論	2前	1			1						
	スポーツ理学療法学概論	3前	1				1					
	(薬学・福祉・看護)	薬学概論	3後		1							兼1
		看護学概論	3後		1							兼1
		福祉学概論	3前	1			1					
		生活支援福祉機器	3前	1			1					
		福祉まちづくり論	4後		2		1					
		チーム医療	4後	1			1					
		多職種間連携教育	3後	1					1			
専門科目群 (基礎理学療法学)	理学療法学概論	1前	1			1					兼1	
	職業倫理管理学	4後		1		1					兼1	
	作業療法学概論	1後		1							兼1	
	言語聴覚治療学概論	1後		1							兼1	
	理学療法研究法	3後	1			1					兼1	
	リハビリテーション工学	4後		1		1						
	世界の理学療法	4後	1							1		
	医療統計学	4後		1		1					2	
	卒業研究	4後		4		2	1			2		
	専門科目群 (理学療法評価学)	理学療法評価学	1後	1						1		
理学療法評価学実習		1後	1						2			
理学療法評価学		2前	1						1			
理学療法評価学実習		2前	1						3			
生体信号解析学		4後	1			1						
専門科目群 (理学療法治療学)		運動療法学	2前	2			1					
		運動療法学実習	2前	1			1				3	
		日常生活活動学	2後	1			1					
		日常生活活動学実習	2後	1			1				3	
		骨・関節系理学療法学	2前	2			1					
	骨・関節系理学療法学実習	2前	1			1				2		
	理学療法機器技術学	2後	1			1						
	義肢補装具学	2後	1						1			
	義肢補装具学実習	3前	1						1			
	中枢神経系理学療法学	2後	2			1						
	中枢神経系理学療法学実習	3前	1			2			2			
	呼吸・循環系理学療法学	2後	1						2			
	呼吸・循環系理学療法学実習	3前	1						2			
	物理療法学	3前	1			1						
	物理療法学実習	3前	1			2			1			
徒手技術学	3後	2			1				1			
小児系理学療法学	2後	1						1				
小児系理学療法学実習	3前	1			1			1				
スポーツ系理学療法学	3後	2			1			1				
理学療法学セミナー	2後	1			1				8			
理学療法学セミナー	3後	1			1				8			
専門科目群 (地域理学療法学)	福祉と健康増進	4後	1			1						
	地域理学療法学	4前	2			1						
	福祉理学療法学	3前	1			1						
専門科目群 (臨床実習)	理学療法学総合演習	4前	1			1	1		6			
	理学療法学総合演習	4後	2			1	1		6			
	理学療法評価学臨床実習	2後	3			5	1		8			
	総合臨床実習	3後	8			5	1		8			
	総合臨床実習	4前	5			5	1		8			

- (注) ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。
 その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。
 ・ 1ページ目には認可時又は届出時と平成30年度の表を記入してください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。
 (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一 授業科目表に関する変更内容

【平成28年度】

・ 「韓国語 B」の履修者が多いため、語学担当教員を1名増やしクラス分けを行った。
 ・ 「スポーツ理学療法学概論」「スポーツ理学療法学」「小児系理学療法学」「小児系理学療法学実習」「人間発達学」「人間発達学」「運動学実習」「理学療法評価学臨床実習」「総合臨床実習」「総合臨床実習」「卒業研究」が平成28年3月変更書で判定「可」(松田准教授)となり、担当教員1名(准教授)を追加した。

【平成29年度】

・ 学生が後期に専門科目への学修に専念できるように「世界の中の日本」の配当年次を「後期」から「前期」に変更した。
 ・ 「義肢補装具学」「義肢補装具学実習」が平成28年10月AC教員審査で判定「可」(河辺助教)となり、担当教員1名(助教)が増加した。
 ・ 「日常生活活動学実習」が平成28年10月AC教員審査で判定「可」(田上助教)となり、担当教員1名(助教)が増加した。
 ・ 「運動学実習」「呼吸・循環系理学療法学」「呼吸・循環系理学療法学実習」「理学療法学セミナー」「理学療法学総合演習」「理学療法学総合演習」「理学療法評価学臨床実習」「総合臨床実習」「総合臨床実習」が平成28年10月AC教員審査で判定「可」(田上助教及び河辺助教)となり、担当教員2名(助教)が増加した。
 ・ 順次性を整え学習効果の向上を図るため、「整形外科学」の配当年次を「前期」から「通年」に変更した。
 ・ 順次性を整え学習効果の向上を図るため、「内科学」の配当年次を「前期」から「後期」に変更した。。

【平成30年度】

・ 田上助教の退職に伴い、「運動学実習」「呼吸・循環系理学療法学」「呼吸・循環系理学療法学実習」「日常生活活動学実習」「理学療法学セミナー」「理学療法学セミナー」「理学療法学総合演習」「理学療法学総合演習」「理学療法評価学臨床実習」「総合臨床実習」「総合臨床実習」の担当教員1名(助教)が減少した。
 ・ 石田教授の退職に伴い、「福祉学概論」「保健医療福祉概論」の担当教員1名(教授)が減少した。

- (注) ・ 変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。
 変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
66 科目	37 科目	0 科目	103 科目	66 科目	37 科目	0 科目	103 科目	
				[-]	[-]	[-]	[-]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合： - 1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注)・ 配当年次に達しているにもかかわらず, 何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については, 記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注)・ 設置時の計画にあり, 何らかの理由で廃止(教育課程から削除)した授業科目について記入してください。なお, 理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は, 「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注)・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{103} = \boxed{}\%$$

- (注)・ 小数点以下第3位を切り捨て, 小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況，経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	1. 共用は 城西大学 (69,900㎡) 城西短期大学 (2,400㎡) 東京紀尾井町キャンパス 及び安房キャンパスの用 地取得による面積変更 (29)			
	校舎敷地	245,511 ㎡ 222,462 ㎡	5,927 ㎡ 5,495 ㎡	96,036 ㎡	347,474 ㎡ 323,993 ㎡				
	運動場用地	12,925 ㎡	0 ㎡	109,055 ㎡	121,980 ㎡				
	小 計	258,436 ㎡ 235,387 ㎡	5,927 ㎡ 5,495 ㎡	205,091 ㎡	469,454 ㎡ 445,973 ㎡				
	そ の 他	60,104 ㎡	0 ㎡	1,210 ㎡	61,314 ㎡				
	合 計	318,540 ㎡ 295,491 ㎡	5,927 ㎡ 5,495 ㎡	206,301 ㎡	530,768 ㎡ 507,287 ㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	1. 共用は 城西大学 (38,673㎡) 城西短期大学 (2,100㎡)			
		77,928 ㎡ (77,928 ㎡)	19,522 ㎡ (19,522 ㎡)	62,611 ㎡ (62,611 ㎡)	160,061 ㎡ (160,061 ㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室 101 室	演 習 室 80 室	実験実習室 48 室	情報処理学習施設 9 室 (補助職員 1 人)	語学学習施設 1 室 (補助職員 1 人)	大学全体		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称 福祉総合学部 理学療法学科		室 数 14 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分 図書： 290,191(55,369)冊(30) 283,743(55,038)冊(29) 262,528(53,143)冊 学術雑誌： 555(33)冊(30) 529(67)冊 電子ジャーナル： 23,124(21,892)種(30) 29,378(20,402)種(29) 24,958(19,367)種 図書、学術雑誌、電子 ジャーナル、視聴覚資料、 機械・器具、標本の新規購 入による変更(30) 図書、学術雑誌、電子 ジャーナル、視聴覚資料、 機械・器具、標本の新規購 入による変更(29)	
	福祉総合学部 理学療法学科	34,396〔3,553〕 (44,398〔3,890〕) (41,775〔3,814〕) (33,268〔3,317〕)	1,181〔1,042〕 (1,173〔1,044〕) (1,167〔1,042〕) (1,162〔1,042〕)	1,033〔1,032〕 (1,044〔1,034〕) (1,038〔1,032〕) (1,033〔1,032〕)	46 (107) (-96) (-46)	452 (904) (-464) (-452)	36 (87) (-44) (-36)		
	計	34,396〔3,553〕 (44,398〔3,890〕) (41,775〔3,814〕) (33,268〔3,317〕)	1,181〔1,042〕 (1,173〔1,044〕) (1,167〔1,042〕) (1,162〔1,042〕)	1,033〔1,032〕 (1,044〔1,034〕) (1,038〔1,032〕) (1,033〔1,032〕)	46 (107) (-96) (-46)	452 (904) (-464) (-452)	36 (87) (-44) (-36)		
(6) 図 書 館		面 積 8,176 ㎡	閱 覧 座 席 数 902 席	収 納 可 能 冊 数 379,000 冊					
(7) 体 育 館		面 積 7,565 ㎡	体育館以外のスポーツ施設の概要 野球場・ソフトボール場 2面 40,387㎡ テニスコート 3面 2,313㎡ サッカー場 1面 19,534 ㎡			大学全体			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	申請学部 全体 図書費には電子ジャーナル・ データベースの整備費(運用コ スト含む)を含む。 *共同研究費 [大学全体] 研究奨励費 7,000千円 論文奨励費 1,575千円
		教員 1 人当り研究費等	教授 598千円 准教授 542千円 助教 542千円	教授 598千円 准教授 542千円 助教 542千円	図書購入費	1,600千円	2,610千円	2,110千円	
	共同研究費等	9,625千円	9,625千円	設備購入費	276,000千円	1,500千円	5,800千円		
	学生 1 人当り 納付金	第 1 年次 1,800 千円	第 2 年次 1,500 千円	第 3 年次 1,500 千円	第 4 年次 1,500 千円	第 5 年次 千円	第 6 年次 千円		[学部の共通研究費] 学部長所管研究費 1,050千円
学生納付金以外の維持方法の概要			学生納付金で不足する経費は、入学検定料収入等の新設する学部にかかる収入及び福祉総合学部理学療法学科設立準備資金から充当する。 福祉総合学部理学療法学科設立準備資金 550,000千円						

- (注)・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成30年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(30)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 AC対象学部等を含む大学等の状況

大学の名称	城西国際大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
福祉総合学部 理学療法学科	4	80		240	学士 (理学療法学)	1.00	平成28年度	千葉県東金市 求名1番地	
経営情報学部 総合経営学科	4	400	3年次 20	1,700	学士 (経営情報)	0.78	平成17年度	千葉県東金市 求名1番地 東京都千代田区 紀尾井町3番地26号	平成24年度より定員 変更 40 平成28年度より定員 変更 60
国際人文学部 国際文化学科	4	80		320	学士 (国際文化)	0.67	平成20年度	千葉県東金市 求名1番地	平成23年度より定員 変更 20 平成24年度より定員 変更 20
国際人文学部 国際交流学科	4	120	3年次 10	500	学士 (国際交流)	0.79	平成20年度	同上	
福祉総合学部 福祉総合学科	4	140	3年次 5	590	学士 (福祉総合)	0.54	平成19年度	千葉県東金市 求名1番地	平成22年度より定員 変更 80 平成23年度より定員 変更 80 平成24年度より定員 変更 40 平成28年度より定員 変更 20
薬学部 医療薬学科	6	130		780	学士 (薬学)	1.10	平成18年度	千葉県東金市 求名1番地	平成23年度より定員 変更 30 平成24年度より定員 変更 20
メディア学部 メディア情報学科	4	300	3年次 20	1,220	学士 (メディア情報)	1.14	平成17年度	千葉県東金市 求名1番地 東京都千代田区 紀尾井町3番地26号	平成24年度より定員 変更40 平成25年度より定員 変更60 平成25年度より編入 定員変更15 平成28年度より定員 変更20
観光学部 ウェルネスツーリズム学科	4	100		400	学士 (観光学)	0.72	平成18年度	千葉県鴨川市 太海1717番地	平成24年度より定員 変更 20
環境社会学部 環境社会学科	4	60		260	学士 (社会学)	0.65	平成22年度	千葉県東金市 求名1番地	平成28年度より定員 変更 20
看護学部 看護学科	4	100		400	学士 (看護学)	1.15	平成24年度	千葉県東金市 求名1番地	

大学の名称	城西国際大学							備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入学 定員	収 容 定 員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
大学院 国際アドミニストレーション研究科 国際アドミニストレーション専攻 (修士課程)	2	35		70	修士 (国際アドミニ ストレーション)	1.03	平成25年度	東京都千代田区 紀尾井町3番地26号	平成28年度より定員 変更10
人文科学研究科 比較文化専攻 (博士後期課程)	3	6		18	博士 (比較文化)	1.22	平成10年度	千葉県東金市 求名1番地	
国際文化専攻 (修士課程)	2	15		30	修士 (国際文化)	0.60	平成8年度	同上	
女性学専攻 (修士課程)	2	15		30	修士 (女性学)	0.51	平成8年度	同上	
グローバルコミュニケーション専攻 (修士課程)	2	25		50	修士 (国際文化)	0.88	平成25年度	東京都千代田区 紀尾井町3番地26号	平成28年度より定員 変更10
経営情報学研究科 起業マネジメント専攻 (博士後期課程)	3	6		18	博士 (経営学)	0.22	平成12年度	千葉県東金市 求名1番地	
起業マネジメント専攻 (修士課程)	2	36		72	修士 (経営学)	0.92	平成10年度	千葉県東金市 求名1番地 東京都千代田区 紀尾井町3番地26号	平成29年度より定員 変更16
福祉総合学研究科 福祉社会専攻 (修士課程)	2	25		50	修士 (福祉社会)	0.29	平成17年度	千葉県東金市 求名1番地	
ビジネスデザイン研究科 ビジネスデザイン専攻 (修士課程)	2	30		60	修士 (経営学)	1.50	平成17年度	東京都千代田区 紀尾井町3番地26号	平成28年度より定員 変更10
薬学研究科 医療薬学専攻 (博士課程)	4	3		12	博士 (薬学)	0.41	平成24年度	千葉県東金市 求名1番地	

大学の名称	城西大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
経済学部 経済学科	4	300		1,200	学士 (経済学)	1.06	昭和40年度	埼玉県坂戸市 けやき台1-1	平成18年度より定員 変更 170
現代政策学部 社会経済システム学科	4	250		1,000	学士 (現代政策)	1.12	平成18年度	埼玉県坂戸市 けやき台1-1	
経営学部 マネジメント総合学科	4	500		2,000	学士 (経営学)	1.09	平成16年度	埼玉県坂戸市 けやき台1-1	
理学部 数学科	4	120		480	学士 (理学)	1.18	昭和40年度	東京都千代田区 平河町2丁目1番4,8 埼玉県坂戸市 けやき台1-1	平成25年度より定員 変更40
化学科	4	90		360	学士 (理学)	0.98	昭和40年度	埼玉県坂戸市 けやき台1-1	平成25年度より定員 変更10
薬学部 薬学科	6	250		1,500	学士 (薬学)	1.21	平成18年度	埼玉県坂戸市 けやき台1-1	
薬科学科	4	50		200	学士 (薬科学)	1.16	平成18年度	同上	
医療栄養学科	4	100		400	学士 (医療栄養学)	0.99	平成13年度	同上	

大学の名称	城西大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	開年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
大学院 経済学研究科 経済政策専攻 (修士課程)	2	10		20	修士 (経済学)	0.65	昭和53年度	埼玉県坂戸市 けやき台1-1	
経営学研究科 ビジネスイノベーション専攻 (修士課程)	2	25		50	修士 (経営学)	0.98	平成15年度	埼玉県坂戸市 けやき台1-1	平成29年度より定員 変更10
理学研究科 数学専攻 (修士課程)	2	15		30	修士 (理学)	0.33	平成10年度	埼玉県坂戸市 けやき台1-1	
物質科学専攻 (修士課程)	2	12		24	修士 (理学)	0.62	平成16年度	同上	
薬学研究科 薬学専攻 (博士課程)	4	6		18	博士 (薬学)	1.28	平成24年度	埼玉県坂戸市 けやき台1-1	平成29年度より定員 変更3
薬科学専攻 (博士前期課程)	2	32		64	修士 (薬科学)	0.90	平成22年度	同上	平成29年度より定員 変更12
薬科学専攻 (博士後期課程)	3	3		9	博士 (薬科学)	0.66	平成24年度	同上	
医療栄養学専攻 (博士前期課程)	2	20		40	修士 (医療栄養学)	1.02	平成17年度	同上	

大学の名称	城西短期大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
ビジネス総合学科	年 2	人 120	年次 人	人 240	短期大学士 (ビジネス総合)	倍 1.10	平成18年度	埼玉県坂戸市 けやき台1-1	

(注)・本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が設置している全ての大学(学部,学科),大学院(専攻)及び短期大学(学科)(AC対象学部等含む)について,それぞれの学校種ごとに,平成30年5月1日現在の上記項目の情報を記入してください。

- ・学部の学科または研究科の専攻等,「入学定員を定めている組織」ごとに記入してください。
「入学定員を定めている組織ごと」には,課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
なお,課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は,法令上規定されている組織上の最小単位(大学であれば「学科」,短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。
- ・専攻科に係るものについては,記入する必要はありません。
- ・AC対象学部等については,必ず記入するとともに,下線を引いてください。
- ・「平均入学定員超過率」には,標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点以下第2位まで(小数点以下第3位を切り捨て)を記入してください。
- ・学生募集を停止している学部等がある場合,入学定員・収容定員・平均入学定員超過率は「-」とし,「備考」に「平成 年より学生募集停止」と記入してください。

5 教員組織の状況

<福祉総合学部 理学療法学科>

(1) - 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成28年度】

【平成29年度】

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>				
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名				
専	教授	池田 誠 (66) 平成28年4月	専	教授	池田 誠 (67) 平成28年4月	専	教授	池田 誠 (68) 平成28年4月	専	教授	池田 誠 (69) 平成28年4月				
		リハビリテーション概論			リハビリテーション概論			リハビリテーション概論			リハビリテーション概論				
		職業倫理管理学			職業倫理管理学			職業倫理管理学			職業倫理管理学				
		生活支援福祉機器			生活支援福祉機器			生活支援福祉機器			生活支援福祉機器				
		総合臨床実習			総合臨床実習			総合臨床実習			総合臨床実習				
		総合臨床実習			総合臨床実習			総合臨床実習			総合臨床実習				
		地域理学療法			地域理学療法			地域理学療法			地域理学療法				
		日常生活活動学			日常生活活動学			日常生活活動学			日常生活活動学				
		日常生活活動学実習			日常生活活動学実習			日常生活活動学実習			日常生活活動学実習				
		福祉理学療法			福祉理学療法			福祉理学療法			福祉理学療法				
理学療法概論	理学療法概論	理学療法概論	理学療法概論												
理学療法評価学臨床実習	理学療法評価学臨床実習	理学療法評価学臨床実習	理学療法評価学臨床実習												
専	教授	石田 路子 (63) 平成28年4月	専	教授	石田 路子 (64) 平成28年4月	専	教授	石田 路子 (65) 平成28年4月	専	教授					
		福祉学概論			福祉学概論			福祉学概論							
専	教授	鳥野 大 (51) 平成28年4月	専	教授	鳥野 大 (52) 平成28年4月	専	教授	鳥野 大 (53) 平成28年4月	専	教授	鳥野 大 (54) 平成28年4月				
		運動学実習			運動学実習			運動学実習			運動学実習				
		総合臨床実習			総合臨床実習			総合臨床実習			総合臨床実習				
		総合臨床実習			総合臨床実習			総合臨床実習			総合臨床実習				
		物理療法学			物理療法学			物理療法学			物理療法学				
		物理療法学実習			物理療法学実習			物理療法学実習			物理療法学実習				
		理学療法研究法			理学療法研究法			理学療法研究法			理学療法研究法				
		理学療法評価学臨床実習			理学療法評価学臨床実習			理学療法評価学臨床実習			理学療法評価学臨床実習				
専	教授	谷内 幸喜 (53) 平成29年4月	専	教授	谷内 幸喜 (54) 平成29年4月	専	教授	谷内 幸喜 (55) 平成29年4月	専	教授	谷内 幸喜 (56) 平成29年4月				
		チーム医療			チーム医療			チーム医療			チーム医療				
		運動学実習			運動学実習			運動学実習			運動学実習				
		運動療法学			運動療法学			運動療法学			運動療法学				
		運動療法学実習			運動療法学実習			運動療法学実習			運動療法学実習				
		総合臨床実習			総合臨床実習			総合臨床実習			総合臨床実習				
		総合臨床実習			総合臨床実習			総合臨床実習			総合臨床実習				
		中枢神経系理学療法			中枢神経系理学療法			中枢神経系理学療法			中枢神経系理学療法				
		中枢神経系理学療法実習			中枢神経系理学療法実習			中枢神経系理学療法実習			中枢神経系理学療法実習				
		理学療法セミナー			理学療法セミナー			理学療法セミナー			理学療法セミナー				
理学療法評価学臨床実習	理学療法評価学臨床実習	理学療法評価学臨床実習	理学療法評価学臨床実習												
専	教授	花岡 正明 (63) 平成28年4月	専	教授	花岡 正明 (64) 平成28年4月	専	教授	花岡 正明 (65) 平成28年4月	専	教授	花岡 正明 (66) 平成28年4月				
		リハビリテーション工学			リハビリテーション工学			リハビリテーション工学							
		医療統計学			医療統計学			医療統計学							
		生体信号解析学			生体信号解析学			生体信号解析学							
		卒業研究			卒業研究			卒業研究							
福祉と健康増進	福祉と健康増進	福祉と健康増進													
理学療法機器技術学	理学療法機器技術学	理学療法機器技術学													
専	教授	増子 勝義 (60) 平成28年4月	専	教授	増子 勝義 (61) 平成28年4月	専	教授	増子 勝義 (62) 平成28年4月	専	教授	増子 勝義 (63) 平成28年4月				
		社会学			社会学			社会学							

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	諸角 一記 (61) 平成28年4月	専	教授	諸角 一記 (62) 平成28年4月	専	教授	諸角 一記 (63) 平成28年4月	専	教授	諸角 一記 (64) 平成28年4月
		運動学実習 骨・関節系理学療法学 総合臨床実習 総合臨床実習 卒業研究 物理療法学実習 理学療法海外研修 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学臨床実習			運動学実習 骨・関節系理学療法学 総合臨床実習 総合臨床実習 卒業研究 物理療法学実習 理学療法海外研修 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学臨床実習			運動学実習 骨・関節系理学療法学 総合臨床実習 総合臨床実習 卒業研究 物理療法学実習 理学療法海外研修 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学臨床実習 運動療法学実習 骨・関節系理学療法学実習			運動学実習 骨・関節系理学療法学 総合臨床実習 総合臨床実習 卒業研究 物理療法学実習 理学療法海外研修 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学臨床実習 運動療法学実習 骨・関節系理学療法学実習
		柳澤 健 (68) 平成28年4月			柳澤 健 (69) 平成28年4月			柳澤 健 (70) 平成28年4月			柳澤 健 (71) 平成28年4月
専	教授	リハビリテーション科学 運動学 運動学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 中枢神経系理学療法学実習 徒手技術学 理学療法海外研修 理学療法評価学臨床実習	専	教授	リハビリテーション科学 運動学 運動学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 中枢神経系理学療法学実習 徒手技術学 理学療法海外研修 理学療法評価学臨床実習	専	教授	リハビリテーション科学 運動学 運動学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 中枢神経系理学療法学実習 徒手技術学 理学療法海外研修 理学療法評価学臨床実習	専	教授	リハビリテーション科学 運動学 運動学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 中枢神経系理学療法学実習 徒手技術学 理学療法海外研修 理学療法評価学臨床実習
		大杉 紘徳 (30) 平成28年4月			大杉 紘徳 (31) 平成28年4月			大杉 紘徳 (32) 平成28年4月			大杉 紘徳 (33) 平成28年4月
		運動学実習 運動療法学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法評価学実習 理学療法評価学実習 理学療法評価学臨床実習			運動学実習 運動療法学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法評価学実習 理学療法評価学実習 理学療法評価学臨床実習			運動学実習 運動療法学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法評価学実習 理学療法評価学実習 理学療法評価学臨床実習			運動学実習 運動療法学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法評価学実習 理学療法評価学実習 理学療法評価学臨床実習
専	助教	桑江 豊 (36) 平成29年4月	専	助教	桑江 豊 (37) 平成29年4月	専	助教	桑江 豊 (38) 平成29年4月	専	助教	桑江 豊 (39) 平成29年4月
		運動学実習 運動療法学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 中枢神経系理学療法学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学実習 理学療法評価学臨床実習			運動学実習 運動療法学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 中枢神経系理学療法学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学実習 理学療法評価学臨床実習			運動学実習 運動療法学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 中枢神経系理学療法学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学実習 理学療法評価学臨床実習			運動学実習 運動療法学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 中枢神経系理学療法学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学実習 理学療法評価学臨床実習
		白谷 智子 (37) 平成29年4月			白谷 智子 (38) 平成29年4月						
専	助教	運動学実習 運動療法学実習 骨・関節系理学療法学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 中枢神経系理学療法学実習 徒手技術学 日常生活活動学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学臨床実習	専	助教	運動学実習 運動療法学実習 骨・関節系理学療法学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 中枢神経系理学療法学実習 徒手技術学 日常生活活動学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学臨床実習	専	助教		専	助教	

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
								栗原 晴 (35) 平成29年4月			栗原 晴 (36) 平成29年4月
							専 助教	運動学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学臨床実習 総合臨床実習 総合臨床実習			運動学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学臨床実習 総合臨床実習 総合臨床実習
								(後任未定)			(後任未定)
								中樞神経系理学療法学実習			中樞神経系理学療法学実習
								原田 恭宏 (57) 平成28年4月			原田 恭宏 (58) 平成28年4月
							専 助教	運動学実習 骨・関節系理学療法学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 日常生活活動学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学 理学療法評価学 理学療法評価学実習 理学療法評価学実習 理学療法評価学臨床実習			運動学実習 骨・関節系理学療法学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 日常生活活動学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学 理学療法評価学 理学療法評価学実習 理学療法評価学実習 理学療法評価学臨床実習
								森下 勝行 (40) 平成29年4月			森下 勝行 (41) 平成29年4月
							専 助教	徒手技術学 運動学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 卒業研究 物理療法学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学臨床実習			運動学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 卒業研究 物理療法学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学臨床実習
								森下 勝行 (39) 平成29年4月			森下 勝行 (38) 平成29年4月
							専 助教	運動学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 卒業研究 物理療法学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学臨床実習			運動学実習 総合臨床実習 総合臨床実習 卒業研究 物理療法学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学臨床実習
								横井 悠加 (38) 平成29年4月			横井 悠加 (39) 平成29年4月
							専 助教	運動学 運動学実習 骨・関節系理学療法学実習 世界の理学療法 総合臨床実習 総合臨床実習 卒業研究 多職種間連携教育 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法評価学臨床実習			運動学 運動学実習 骨・関節系理学療法学実習 世界の理学療法 総合臨床実習 総合臨床実習 卒業研究 多職種間連携教育 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法評価学臨床実習
								横井 悠加 (36) 平成29年4月			横井 悠加 (37) 平成29年4月
							専 助教	運動学 運動学実習 骨・関節系理学療法学実習 世界の理学療法 総合臨床実習 総合臨床実習 卒業研究 多職種間連携教育 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法評価学臨床実習			運動学 運動学実習 骨・関節系理学療法学実習 世界の理学療法 総合臨床実習 総合臨床実習 卒業研究 多職種間連携教育 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法評価学臨床実習
								松田 雅弘 (40) 平成29年4月			松田 雅弘 (41) 平成29年4月
							専 准教授	スポーツ系理学療法学 スポーツ系理学療法学概論 小児系理学療法学 小児系理学療法学実習 人間発達学 運動学実習 理学療法評価学臨床実習 総合臨床実習 総合臨床実習 卒業研究			スポーツ系理学療法学 スポーツ系理学療法学概論 小児系理学療法学 小児系理学療法学実習 人間発達学 運動学実習 理学療法評価学臨床実習 総合臨床実習 総合臨床実習 卒業研究

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
								田上 未菜 (42) 平成29年4月 日常生活活動学実習 呼吸・循環系理学療法学 呼吸・循環系理学療法学実習 運動学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学臨床実習 総合臨床実習 総合臨床実習			
								(後任未定) 日常生活活動学実習 呼吸・循環系理学療法学 呼吸・循環系理学療法学実習			
								河辺 信秀 (37) 平成29年4月 義肢補装具学 義肢補装具学実習 呼吸・循環系理学療法学 呼吸・循環系理学療法学実習 運動学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学臨床実習 総合臨床実習 総合臨床実習			
								河辺 信秀 (38) 平成29年4月 義肢補装具学 義肢補装具学実習 呼吸・循環系理学療法学 呼吸・循環系理学療法学実習 運動学実習 理学療法学セミナー 理学療法学セミナー 理学療法学総合演習 理学療法学総合演習 理学療法評価学臨床実習 総合臨床実習 総合臨床実習			
兼任	教授	飯倉 章 (60) 平成28年9月 国際交流・協力実践 国際交流論	兼任	教授	飯倉 章 (61) 平成28年9月 国際交流・協力実践 国際交流論	兼任	教授	飯倉 章 (62) 平成28年9月 国際交流・協力実践 国際交流論			
兼任	教授	岩田 泉 (61) 平成29年4月 臨床心理学	兼任	教授	岩田 泉 (62) 平成29年4月 臨床心理学	兼任	教授	岩田 泉 (63) 平成29年4月 臨床心理学			
兼任	教授	魚住 明代 (54) 平成30年4月 ジェンダー論	兼任	教授	魚住 明代 (55) 平成30年4月 ジェンダー論	兼任	教授	魚住 明代 (56) 平成30年4月 ジェンダー論			
兼任	教授	大塚 正美 (52) 平成30年4月 生涯スポーツ概論	兼任	教授	大塚 正美 (53) 平成30年4月 生涯スポーツ概論	兼任	教授	大塚 正美 (54) 平成30年4月 生涯スポーツ概論			
兼任	助教	KIRALY Attila (42) 平成28年4月 ハンガリー語 A ハンガリー語 B	兼任	助教	KIRALY Attila (43) 平成28年4月 ハンガリー語 A ハンガリー語 B	兼任	助教	KIRALY Attila (44) 平成28年4月 ハンガリー語 A ハンガリー語 B			
兼任	教授	倉林 眞砂斗 (57) 平成29年9月 グローバル研修 世界の中の日本	兼任	教授	倉林 眞砂斗 (58) 平成29年9月 グローバル研修 世界の中の日本	兼任	教授	倉林 眞砂斗 (59) 平成29年9月 グローバル研修 世界の中の日本			
兼任	教授	佐藤 秀次 (65) 平成28年4月 基礎生物学 基礎物理学 薬学概論	兼任	教授	佐藤 秀次 (66) 平成28年4月 基礎生物学 基礎物理学 薬学概論	兼任	教授	佐藤 秀次 (67) 平成28年4月 基礎生物学 基礎物理学 薬学概論			
兼任	教授	柴 理子 (57) 平成28年4月 コミュニケーションの基礎 ポーランド語 A ポーランド語 B	兼任	教授	柴 理子 (58) 平成28年4月 コミュニケーションの基礎 ポーランド語 A ポーランド語 B	兼任	教授	柴 理子 (59) 平成28年4月 コミュニケーションの基礎 ポーランド語 A ポーランド語 B			
兼任	教授	瀧 章次 (57) 平成28年9月 人間学	兼任	教授	瀧 章次 (58) 平成28年9月 人間学	兼任	教授	瀧 章次 (59) 平成28年9月 人間学			
兼任	教授	飯倉 章 (60) 平成28年9月 国際交流・協力実践 国際交流論							兼任	教授	田中 由美子 (67) 平成30年4月 国際交流・協力実践 国際交流論
									兼任	教授	岩田 泉 (64) 平成29年4月 臨床心理学
									兼任	准教授	遠藤 恵子 (47) 平成30年4月 ジェンダー論
									兼任	教授	大塚 正美 (54) 平成30年4月 生涯スポーツ概論
									兼任	助教	KIRALY Attila (45) 平成28年4月 ハンガリー語 A ハンガリー語 B
									兼任	教授	倉林 眞砂斗 (60) 平成29年9月 グローバル研修 世界の中の日本
									兼任	教授	佐藤 秀次 (68) 平成28年4月 基礎生物学 基礎物理学 薬学概論
									兼任	教授	柴 理子 (60) 平成28年4月 コミュニケーションの基礎 ポーランド語 A ポーランド語 B
									兼任	教授	瀧 章次 (60) 平成28年9月 人間学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	准教授	戸田 徹子 (61) 平成28年9月
		異文化理解
兼任	助教	フロミニッツ林 ララ (43) 平成28年4月
		Fundamentals of English Fundamentals of English Oral Fluency
兼任	教授	堀 千鶴子 (50) 平成30年9月
		女性福祉論
兼任	講師	Adkins Benjamin (38) 平成28年4月
		Fundamentals of English Oral Fluency
兼任	講師	金 大石 (43) 平成28年4月
		韓国語 A 韓国語 B
兼任	講師	Kelly Christine (48) 平成28年4月
		Fundamentals of English Oral Fluency Oral Fluency
兼任	講師	後藤 茂 (58) 平成29年4月
		整形外科学 内科学
兼任	講師	小林 悦子 (72) 平成29年9月
		作業療法学概論
兼任	講師	酒井 朋子 (59) 平成30年9月
		看護学概論
兼任	講師	姜 寅星 (42) 平成28年4月
		中国語 A 中国語 B
兼任	講師	関根 紀夫 (49) 平成31年4月
		画像診断学
兼任	講師	高木 治 (54) 平成28年9月
		情報リテラシー演習
兼任	講師	高橋 葉子 (58) 平成28年4月
		心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	准教授	戸田 徹子 (62) 平成28年9月
		異文化理解
兼任	助教	Michael Burke Edward (33) 平成29年4月
		Fundamentals of English Fundamentals of English Oral Fluency
兼任	教授	堀 千鶴子 (51) 平成30年9月
		女性福祉論
兼任	講師	Adkins Benjamin (39) 平成28年4月
		Fundamentals of English Oral Fluency
兼任	講師	金 大石 (44) 平成28年4月
		韓国語 A
兼任	教授	李 英和 (56) 平成28年4月
		韓国語 B
兼任	教授	李 熙錫 (47) 平成28年4月
		韓国語 B
兼任	講師	James Knight (66) 平成28年4月
		Fundamentals of English Oral Fluency Oral Fluency
兼任	講師	後藤 茂 (59) 平成29年4月
		整形外科学 内科学
兼任	講師	小林 悦子 (73) 平成29年9月
		作業療法学概論
兼任	講師	酒井 朋子 (60) 平成30年9月
		看護学概論
兼任	講師	小松 嵐 (62) 平成28年4月
		中国語 A 中国語 B
兼任	講師	関根 紀夫 (50) 平成31年4月
		画像診断学
兼任	講師	高木 治 (55) 平成28年9月
		情報リテラシー演習
兼任	講師	高橋 葉子 (59) 平成28年4月
		心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	准教授	戸田 徹子 (63) 平成28年9月
		異文化理解
兼任	助教	Michael Burke Edward (34) 平成29年4月
		Fundamentals of English Fundamentals of English Oral Fluency
兼任	教授	堀 千鶴子 (52) 平成30年9月
		女性福祉論
兼任	講師	Adkins Benjamin (40) 平成28年4月
		Fundamentals of English Oral Fluency
兼任	講師	金 大石 (45) 平成28年4月
		韓国語 A
兼任	教授	李 英和 (57) 平成28年4月
		韓国語 B
兼任	教授	李 熙錫 (48) 平成28年4月
		韓国語 B
兼任	講師	James Knight (67) 平成29年4月
		Fundamentals of English Oral Fluency Oral Fluency
兼任	講師	Mernyei Maria (60) 平成29年4月
		内科学
兼任	講師	平塚 圭介 (42) 平成29年4月
		整形外科学
兼任	講師	小林 悦子 (74) 平成29年9月
		作業療法学概論
兼任	講師	酒井 朋子 (61) 平成30年9月
		看護学概論
兼任	講師	小松 嵐 (63) 平成28年4月
		中国語 A 中国語 B
兼任	講師	関根 紀夫 (51) 平成31年4月
		画像診断学
兼任	講師	高木 治 (56) 平成28年9月
		情報リテラシー演習
兼任	講師	高橋 葉子 (60) 平成28年4月
		心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名
兼任	准教授	戸田 徹子 (64) 平成28年9月
		異文化理解
兼任	助教	Colin James Thompson (42) 平成30年4月
		Fundamentals of English Fundamentals of English Oral Fluency
兼任	教授	堀 千鶴子 (53) 平成30年9月
		女性福祉論
兼任	講師	Adkins Benjamin (41) 平成28年4月
		Fundamentals of English Oral Fluency
兼任	講師	金 大石 (45) 平成28年4月
		韓国語 A
兼任	教授	李 英和 (58) 平成28年4月
		韓国語 B
兼任	准教授	吉岡 美愛 (49) 平成30年4月
		韓国語 B
兼任	講師	James Knight (68) 平成28年4月
		Fundamentals of English Oral Fluency Oral Fluency
兼任	講師	Mernyei Maria (61) 平成29年4月
		内科学
兼任	講師	平塚 圭介 (43) 平成29年4月
		整形外科学
兼任	講師	小林 悦子 (75) 平成29年9月
		作業療法学概論
兼任	講師	酒井 朋子 (62) 平成30年9月
		看護学概論
兼任	講師	小松 嵐 (64) 平成28年4月
		中国語 A 中国語 B
兼任	講師	関根 紀夫 (52) 平成31年4月
		画像診断学
兼任	講師	高木 治 (57) 平成28年9月
		情報リテラシー演習
兼任	講師	高橋 葉子 (61) 平成28年4月
		心理学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月>
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	高見 茂 (57) 平成28年4月	兼任	講師	高見 茂 (58) 平成28年4月	兼任	講師	高見 茂 (59) 平成28年4月	兼任	講師	高見 茂 (60) 平成28年4月
		人体の機能 人体の機能 人体の機能演習 人体の構造 人体の構造 人体の構造演習			人体の機能 人体の機能 人体の機能演習 人体の構造 人体の構造 人体の構造演習			人体の機能 人体の機能 人体の機能演習 人体の構造 人体の構造 人体の構造演習			人体の機能 人体の機能 人体の機能演習 人体の構造 人体の構造 人体の構造演習
兼任	講師	中田 亜希子 (43) 平成28年4月	兼任	講師	中田 亜希子 (44) 平成28年4月	兼任	講師	中田 亜希子 (45) 平成28年4月	兼任	講師	中田 亜希子 (46) 平成28年4月
		心理学			心理学			心理学			心理学
兼任	講師	長山 忠雄 (73) 平成31年9月	兼任	講師	長山 忠雄 (74) 平成31年9月	兼任	講師	長山 忠雄 (75) 平成31年9月	兼任	講師	長山 忠雄 (76) 平成31年9月
		死生学			死生学			死生学			死生学
兼任	講師	西川 徹 (54) 平成28年4月	兼任	講師	西川 徹 (55) 平成28年4月	兼任	講師	西川 徹 (56) 平成28年4月	兼任	講師	西川 徹 (57) 平成28年4月
		情報リテラシー演習 統計学			情報リテラシー演習 統計学			情報リテラシー演習 統計学			情報リテラシー演習 統計学
兼任	講師	林 隆司 (61) 平成28年9月	兼任	講師	林 隆司 (62) 平成28年9月	兼任	講師	林 隆司 (63) 平成28年9月	兼任	講師	林 隆司 (64) 平成28年9月
		言語聴覚治療学概論			言語聴覚治療学概論			言語聴覚治療学概論			言語聴覚治療学概論
兼任	講師	水野 俊誠 (51) 平成29年9月	兼任	講師	水野 俊誠 (52) 平成29年9月	兼任	講師	富田 真奈美 (52) 平成29年9月	兼任	講師	富田 真奈美 (53) 平成29年9月
		精神医学			精神医学			精神医学			精神医学
兼任	講師	立古 ダニエラ (48) 平成28年4月	兼任	講師	立古 ダニエラ (49) 平成28年4月	兼任	講師	立古 ダニエラ (50) 平成28年4月	兼任	講師	立古 ダニエラ (51) 平成28年4月
		チェコ語 A チェコ語 B			チェコ語 A チェコ語 B			チェコ語 A チェコ語 B			チェコ語 A チェコ語 B
専任 補充		(後任未定)	専任 補充		(後任未定)	専任 補充		(後任未定)	専任 補充		(後任未定)
		義肢補装具学 義肢補装具学実習 呼吸・循環系理学療法 呼吸・循環系理学療法実習 スポーツ理学療法 スポーツ理学療法概論 小児理学療法 小児理学療法実習 人間発達学			義肢補装具学 義肢補装具学実習 呼吸・循環系理学療法 呼吸・循環系理学療法実習						

- (注)・ 申請書又は届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 - ・ その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 担当教員表に関する変更内容

【平成28年度】

- ・専任補充科目の対応として、松田准教授を平成29年4月から採用し、8科目担当している。既就任の専任教員である、諸角教授が2科目、原田助教が1科目担当を担当している（3名とも平成28年10月AC教員審査で判定「可」）。
- ・林助教の退職のため、Michael助教に変更した。
- ・「韓国語 B」の履修者が多いため、李英和助教と李熙錫教授の2クラスを開講した。
- ・Kelly兼任講師の退職のため、James Knight兼任講師に変更した。
- ・姜兼担講師の就任辞退のため、小松嵐兼任講師に変更した。

【平成29年度】

- ・白谷助教就任辞退のため、新たに栗原助教を平成29年4月から採用し、8科目担当している。既就任の専任教員である、諸角教授が2科目、原田助教が1科目担当を担当している（3名とも平成28年10月AC教員審査で判定「可」）。
- ・専任補充科目の対応として、田上助教及び河辺助教を平成29年4月から採用した（平成28年10月AC教員審査で判定「可」）。
- ・後藤兼任講師の就任辞退のため、Mernyei兼任講師及び平塚兼任講師に変更した。
- ・水野兼任講師の就任辞退のため、富田兼任講師に変更した。

【平成30年度】

- ・石田教授の退職のため、後任候補者を選定中。急であったため、本年度は兼任講師として当該教授が講義を担当することとした。
- ・田上助教の退職のため、後任候補者を選定中。6月に教員審査を提出し、9月の秋学期から採用を予定している。
- ・飯倉教授の役職就任のため、飯倉教授から田中教授に変更した。
- ・魚住教授の海外派遣のため、遠藤准教授に変更した。
- ・Michael助教の退職のため、GolIn助教に変更した。
- ・李熙錫教授の退職のため、吉岡准教授に変更した。

- (注) ・ 変更内容を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「 年 月教員審査済」と記入してください。なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
 - ・ 不要な年度（平成28年度開設であれば平成27年度、平成29年度開設であれば平成27年度及び平成28年度、平成30年度開設であれば平成27年度から平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
14	7
名	名

- (注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - 専任教員数

設置時の計画					現在（報告書提出時）の状況					現在（報告書提出時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	教授	准教授	講師	助教	計（C）
8	0	0	6	14	7	1	0	7	15	8	1	0	8	17
(7)	(0)	(0)	(2)	(0)						[-]	[1]	[-]	[2]	[3]

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。
- ・ 「現在（報告書提出時）の状況」には、報告書提出年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 - ・ 「現在（報告書提出時）の完成年度時の計画」には、「現在（報告書提出時）の状況」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合： - 1）

(2) - 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告書提出時（上 記（B））の教員 のうち、定年を延 長して採用してい る教員数	完成年度時（上 記（C））の教員 うち、定年を延長 して採用する教員数
70 (平成19年4月1日以 降の採用者は65)	2	3
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、平成30年5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
- ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告書提出時）の完成年度時の計画（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{17}{14} = 121.42\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - 現在（報告書提出時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告書提出時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告書提出時）の状況（B）}} = \frac{2}{15} = 13.33\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - 専任教員の就任辞退(未就任)の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退(未就任)の理由
1	助教	白谷 智子	必修	運動学実習		平成28年6月就任辞退(29)
			必修	運動療法学実習		
			必修	骨・関節系理学療法実習		
			必修	中枢神経系理学療法実習		
			必修	徒手技術学		
			必修	日常生活活動学実習		
			必修	理学療法学セミナー		
			必修	理学療法学セミナー		
			必修	理学療法学総合演習		
			必修	理学療法学総合演習		
			必修	理学療法評価学臨床実習		
必修	総合臨床実習					
必修	総合臨床実習					

合計(D)			後任補充状況の集計(E)										
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		の合計数(a)		の合計数(b)		の合計数(c)						
1	人	必修	13	科目	必修	12	科目	必修	0	科目	必修	1	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	13	科目	計	12	科目	計	0	科目	計	1	科目

- (注)・認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・「就任辞退(未就任)」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退(未就任)の理由」に就任辞退の理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「 」~「 」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---------------------------------|
| ・専任教員が担当する(している)場合は「 」 |
| ・兼任兼任教員が担当する(している)場合は「 」 |
| ・後任未定、科目廃止など、上記「 」 「 」以外の場合は「 」 |

(3) - 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	助教	田上 未来	必修	運動学実習		平成30年3月退職(30) 自己都合による退職。
			必修	呼吸・循環系理学療法		
			必修	呼吸・循環系理学療法実習		
			必修	日常生活活動学実習		
			必修	理学療法学セミナー		
			必修	理学療法学セミナー		
			必修	理学療法学総合演習		
			必修	理学療法学総合演習		
			必修	理学療法評価学臨床実習		
			必修	総合臨床実習		
2	教授	石田 路子	必修	福祉学概論		平成30年3月退職(30) 自己都合による退職
			必修	保健医療福祉概論		

合計(F)			後任補充状況の集計(G)										
辞任した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		の合計数(a)		の合計数(b)		の合計数(c)						
2	人	必修	13	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	13	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	13	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	13	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「 」～「 」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「 」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「 」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「 」 「 」 以外の場合は「 」 |
|---|

(3) - 上記(3) - ・ (3) - の合計

合計(D)+(F)			後任補充状況の集計(E)+(G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		の合計数(a)		の合計数(b)		の合計数(c)	
3 人	必修	26 科目	必修	12 科目	必修	0 科目	必修	14 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	26 科目	計	12 科目	計	0 科目	計	14 科目

(3) - 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - \text{合計(D)+(F)}}{(2) - \text{設置時の計画(A)}} = \frac{3}{14} = \boxed{21.42} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし				

合計			後任補充状況の集計					
辞任した教員数	担当科目数の合計(a)+(b)+(c)		の合計数(a)		の合計数(b)		の合計数(c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「 」～「 」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「 」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「 」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「 」 「 」 以外の場合は「 」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>【大学の所見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 履修へ影響がないように、開講日程を調整して実施する。 <p>【学生への周知方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月の授業開始前にオリエンテーションを開催する。そのオリエンテーションにて教員の退職及び担当科目についての変更点について説明をする。
--

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 留意事項等に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設 置 時 (27年10月)</p>	<p>・必修科目として1年後期に開設する「理学療法海外研修」について、学生が十分に「理学療法学」を学んだ後に履修することが出来るよう、教育課程の体系性・順序性の観点から開講時期について再検討すること。また、授業担当教員2名と補助の引率教員2名で80人の学生を同時期かつ1施設のみで対応する計画で、確実に実施できるかどうか、その実行可能性について懸念があるとともに、何らかの理由で海外研修に参加出来ない学生がいた場合の措置が不明であることから、教員配置と履修出来ない学生への措置を十分に検討した上で、適切に実施すること。</p>	<p>「理学療法海外研修」の時期は、本学科カリキュラムの「専門基礎科目群」に配置している理学療法の基礎となる科目9科目14単位と語学の必修科目2科目4単位を学んだ後であり、1年次の後期授業終了後を予定している。専門基礎の知識及び語学について体系性・順序性を考慮した時期で行うこととしている。授業担当教員2名と補助の引率教員2名で80名の学生を同時期かつ1施設のみで対応する計画で、確実に実施できるかどうかということについては、協定校である先方との調整により十分におこなえるように準備している。また、米国カリフォルニアにある本学の姉妹校にレジデントダイレクターとして派遣・駐在している教員(1名)も調整及び準備に加わっており、滞りなく研修が行えるように計画している。また、「理学療法海外研修」は、早期に海外の現状を知り、広い視野を得てこれまでの歴史と現状に関する理解を深めることを目的として、主に研修先機関での講義と、理学療法先進国における最新の施設・設備の見学を行う構成としており、当該研修に参加できない学生がいた場合には、当該学生が上記の目的を達成するための代替研修として、科目担当教員が学内で当該海外研修と同一の資料及び内容による講義を行うとともに、見学を行った研修先機関の施設・設備の画像や動画を用いて解説を行ったうえで、研修先機関と同様又は類似の施設・設備を有する国内の病院・施設の訪問、見学を行うこととしている。(30)</p>	<p>履行済</p>
	<p>・「総合臨床実習」については、適切な臨床実習指導者との連携の下で、授業の到達目標を確実に達成することが重要であり、特に、成績評価については、9割を実習の「学生評価票」にて判断すると記載がシラバスにあるが、実質的に臨床実習指導者のみで科目の評価を判断することのないよう、学生の学修を科目担当教員が十分に把握した上で適切に成績評価を行うこと。</p>	<p>「総合臨床実習」では、臨床実習指導者から提出される総合臨床実習指導報告書(学生評価票)及び学生から提出される症例報告用レジュメ等の提出物を総合した評価が90%、臨床実習前及び終了後のセミナーでの取り組み、報告内容及び討論・意見交換の内容による評価が10%の配分により成績評価を行う。なお、当該科目のシラバスに記載する成績評価の基準は、2016年度に修正した(別添資料参照)。また、科目担当教員は、当該科目をとおして、学生に対する臨床実習前セミナーを実施するほか、臨床実習中には定期的に臨床実習施設を訪問し、臨床実習指導者から臨床実習の進捗状況や本学で作成した実習計画に沿った内容であるか確認するとともに、実習中の学生に対する指導を行う。臨床実習終了後には、学生の学びの成果に関する報告、討議及び意見交換を実施することで、終始一貫した学生の学修の成果の確認及び把握に努めるとともに、当該科目における指導対応に差異が生じないよう、科目担当教員間でのディスカッションにより共有をはかり、厳格かつ適切に成績評価を行っていく。(30)</p>	<p>履行済</p>

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	<p>・完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編製の将来構想について着実に実施すること。</p>	<p>完成年度後の教員組織編製の将来構想を策定し、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努める。(28)</p>	<p>履行済</p>
<p>設 置 時 (27年10月)</p>	<p>・教員の補充を必要とされた9授業科目については、科目開講時までに確実に専任教員を配置して教員を充足すること。</p>	<p>設置時の留意事項で教員の補充を必要とされた9科目(下記～)のうち、2016年4月に開講時期を迎えた「人間発達学」については、2016年4月は松田雅弘氏(兼任講師)が担当、2017年4月に同氏を准教授として採用し同科目の担当教員として充てた。なお、松田准教授は、同科目の他、当該9科目のうち「小児系理学療法学」「小児系理学療法実習」「スポーツ理学療法学概論」「スポーツ系理学療法学」もAC教員審査において「可」の判定をうけている。</p> <p>さらに、2017年4月に川辺信秀助教、田上未来助教を採用している。川辺助教においては、「義肢補装具学」「義肢補装具学実習」「呼吸・循環系理学療法学実習」「呼吸・循環系理学療法学(循環担当:オムニバス)」をAC教員審査において「可」の判定をうけている。田上助教においては、「呼吸・循環系理学療法学実習」「呼吸・循環系理学療法学(呼吸担当:オムニバス)」をAC教員審査において「可」の判定をうけている。しかしながら、同助教が2018年3月をもって厚生労働省に急遽割愛を受け退職されたことに伴い、上記2科目の担当教員が未定となった。そのうち、「呼吸・循環系理学療法学実習」の担当教員については、本年9月に山元佐和子助教を採用し同科目の担当教員として充てた(AC教員審査の判定「可」)。「呼吸・循環系理学療法学(呼吸担当:オムニバス)」については、本年10月に同助教を後任候補としてAC教員審査に提出する予定である。</p> <p>上記のとおり、設置時の留意事項で教員の補充を必要とされた9科目のうち、8科目については、それぞれ対応の目処がついている。しかしながら、「呼吸・循環系理学療法学」の呼吸担当(オムニバス)がAC教員審査に提出予定であるものの現時点では未定の状況である。(30)</p>	<p>科目担当が未定となっている「呼吸・循環系理学療法学」の呼吸担当(オムニバス)については、2018年9月に採用した山元佐和子助教を科目担当候補として、本年10月のAC教員審査に提出する予定である。</p> <p>未履行</p>

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
	<p>・国際アドミニストレーション研究科国際アドミニストレーション専攻(M)において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実行すること。</p>	<p>専任教員の定年年齢を超えて在職している教員の割合が高いことについては、大学院研究科として研究業績、指導力のある多彩な教員を確保するためにも必要なことと認識している。新たな教育組織編成及び将来構想を踏まえて、早急に検討・対応する。(28)</p>	<p>未履行</p> <p>今後の改善計画として、早急な対応が必要なため、同国際アドミニストレーション専攻の教員組織の見直しと将来構想を踏まえた人事計画を策定し、着実に実行する。</p>
	<p>・既設学部等(理学部数学科)の入学定員超過の改善に努めること。</p>	<p>定員超過率が一昨年1.32倍であったため、歩留まりの精査検討を行い、昨年度は1.07倍に収まった。本年度は昨年度の歩留まりをもとに判定した。しかし、本年度、手続き者の歩留まりが昨年より大幅に低下したため、追加合格を行ったところ追加合格者の歩留まりは逆に動き、1.49倍の超過を招いた。現在、得点ゾーン毎の検討を実施している。(28)</p>	<p>未履行</p> <p>本年度の得点ゾーンごとの歩留まりを精査検討し、来年度は、受験生の得点分布をベースにした正確な歩留まりの予想と、適切な判定に努める。</p>
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (28年2月)</p>	<p>・既設学部等(城西国際大学環境社会学部環境社会学科、観光学部ウェルネスツーリズム学科、城西短期大学ビジネス総合学科)の定員充足率が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>1)城西短期大学は、平成27年度において充足率が0.63であったが、平成28年度には充足率は0.7に上昇した。短期大学を希望する学生の多様化を図り、特に平成28年度には留学生を確保することにより充足率が上がった。(28)</p> <p>2)環境社会学部環境社会学科では、募集活動等の見直し・強化と併せて、平成28年4月より入学定員を80人から60人と20人削減した。その結果、平成27年度の平均入学定員超過率が0.52倍であったのに対し、平成28年度の同率は0.57倍となった。不十分ながらやや回復傾向にある。(28)</p> <p>3)観光学部ウェルネスツーリズム学科では、募集活動等の見直し・強化を行った。結果、平成27年度の平均入学定員超過率が0.52倍であったのに対し、平成28年度の同率は0.59倍となった。不十分ながらやや回復傾向にある。(28)</p>	<p>未履行</p> <p>1)城西短期大学の充足率が上昇したといっても、0.7倍であり、今後とも短期大学への社会的なニーズをふまえ、多様な学生の確保のために学生募集活動を活発化するとともに、多様な学生のためのカリキュラムの充実を図る。</p> <p>2)左記のとおり、募集活動の見直し・強化や、入学定員の見直しにより、収容定員の充足率は未達ながらも、一定の改善がみてとれる。今後更に学生確保に総力を注ぎ、入学定員並びに収容定員充足に努める。</p> <p>3)左記のとおり、募集活動の見直し・強化により、収容定員の充足率は未達ながらも、一定の改善がみてとれる。今後更に学生確保に総力を注ぎ、入学定員並びに収容定員充足に努める。</p>

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
設置計画履行状況 調 査 時 (29年2月)	<p>・国際アドミニストレーション研究科国際アドミニストレーション専攻(M)において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想を策定し、着実に実行すること。</p>	<p>定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合は、平成28年度の62.5%に対し、平成29年度は40.0%となった。(29)</p>	<p>平成28年7月に策定した教員任用計画に基づいて改善に取り組んでいる。漸次その効果が出てきているが、平成31年度を目途に引き続き改善に取り組んでいく。</p>
	<p>・福祉総合学部理学療法学科において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p>	<p>定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合は、平成28年度の14.3%に対し、平成29年度は11.8%となった。(29)</p>	<p>現在、平成32年の完成年度に向けて設置認可申請時の計画を履行中であり、年次採用の若手教員が着任したこともあって専任教員の年齢バランスは改善の傾向にある。適切な組織編成となるよう平成30年度中には将来構想をふまえた教員任用計画を策定する予定である。</p>
	<p>・同一設置者が設置する既設学部等(城西大学理学部数学科、薬学部薬科学科)の入学定員超過の改善に努めること。</p>	<p>1)城西大学理学部数学科では、平成28年度の入学定員超過率が1.49倍であったため、歩留まりの精査検討を行い、平成29年度入学定員超過率が1.15倍となった。(29)</p> <p>2)城西大学薬学部薬科学科では、平成28年度の入学定員超過率が1.58倍であったため、歩留まりの精査検討を行い、平成29年度入学定員超過率が1.0倍となった。(29)</p>	<p>城西大学理学部数学科については、平成29年度の入学定員超過率は1.15倍となったものの、平均入学定員超過率は昨年度の入学定員超過の影響により1.25倍となっている。よって、平成30年度についても引き続き歩留まりの精査検討を十分に行い、1.0倍を目指す。</p> <p>城西大学薬学部薬科学科については、平成29年度の入学定員超過率は1.0倍となったものの、平均入学定員超過率は昨年度の入学定員超過の影響により1.26倍となっている。よって、平成30年度についても引き続き歩留まりの精査検討を十分に行う。</p>

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
<p>設置計画履行状況 調 査 (29年2月)</p>	<p>・同一設置者が設置する既設学部等（国際人文学部国際文化学科、国際交流学科、環境社会学部環境社会学科、観光学部ウェルネスツーリズム学科、城西短期大学ビジネス総合学科）の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。</p>	<p>1) 城西短期大学ビジネス総合学科では、平成29年度については、短期大学を希望する学生の多様化を図るとともに留学生を確保することに努力した。よって、入学定員充足率が0.97に上昇し、定員充足率が0.83に回復した。(29)</p> <p>2) 国際人文学部国際文化学科では、募集活動等の見直し・強化に取り組み、平成28年度の入学定員充足率の平均0.65倍に対し、平成29年度の同率の平均は0.68倍となった。不十分ながらやや改善の傾向にある。(29)</p> <p>3) 国際人文学部国際交流学科では、募集活動等の見直し・強化に取り組み、平成28年度の入学定員充足率の平均0.67倍に対し、平成29年度の同率の平均は0.75倍となった。不十分ながらやや改善の傾向にある。(29)</p> <p>4) 環境社会学部環境社会学科では、募集活動等の見直し・強化に取り組み、平成28年度の入学定員充足率の平均0.59倍に対し、平成29年度の同率の平均は0.64倍となった。不十分ながらやや改善の傾向にある。(29)</p> <p>5) 観光学部ウェルネスツーリズム学科では、募集活動等の見直し・強化に取り組み、平成28年度の入学定員充足率の平均0.59倍に対し、平成29年度の同率の平均は0.74倍となった。不十分ながらやや改善の傾向にある。(29)</p>	<p>城西短期大学ビジネス総合学科については、定員充足率が上昇したといっても0.83倍であり、今後とも短期大学への社会的なニーズをふまえ、多様な学生の確保のために学生募集活動を活発化するとともに、多様な学生のためのカリキュラムの充実を図る。</p> <p>国際人文学部国際文化学科及び国際交流学科、環境社会学部環境社会学科、観光学部ウェルネスツーリズム学科については、いずれの学部・学科においても定員充足率が上昇したといっても未達である。引き続き、募集活動の見直し・強化を行い、入学定員の充足に努める。</p> <p>未履行</p>

区 分	留 意 事 項 等	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画	
	・国際アドミニストレーション研究科国際アドミニストレーション専攻（M）において、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想を策定し、着実に実行すること。	平成28年7月に策定した教員任用計画に基づき改善に取り組んできた。併せて、平成30年3月にこれまで未整備であった特別任用教員（特任、招聘、客員）の定年を整備した。教員任用計画では、平成31年度中を目処に改善することとしていたが、これらの取り組みにより、平成30年5月時点で定年規程に定める退職年齢を超える専任教員は0名となった。（30）	履行済	
設置計画履行状況 調査時 (30年2月)	・同一設置者が設置する既設学部等（国際人文学部国際文化学科，福祉総合学部福祉総合学科，環境社会学部環境社会学科）の定員充足率の平均が0.7倍未満となっていることから、学生確保に努めるとともに、入学定員の見直しについて検討すること。	1) 国際人文学部国際文化学科では、募集活動等の見直し・強化に取り組んだが、平成29年度の入学定員充足率の平均0.68倍に対し、平成30年度の同平均は0.67倍となった。ほぼ横ばいの状態ではあるものの、わずかに減少の傾向にある。（30） 2) 福祉総合学部福祉総合学科では、募集活動等の見直し・強化に取り組んだものの、平成29年度の入学定員充足率の平均0.64倍に対し、平成30年度の同平均は0.54倍に減少した。（30） 3) 環境社会学部環境社会学科では、募集活動等の見直し・強化に取り組む、平成29年度の入学定員充足率の平均0.64倍に対し、平成30年度の同平均は0.65倍となった。不十分ながらやや改善の傾向にある。（30）	未履行	国際人文学部国際文化学科及び福祉総合学部福祉総合学科については、いずれの学部・学科においても入学定員充足率が減少傾向にあることから、平成30年度内に（1）収容定員の見直しや社会的ニーズに対応した学部・学科の新設の検討、（2）大学教育ニーズの変化を見据えた教育内容（コース、カリキュラム等）の改革、（3）入学定員充足に向けた、学生募集体制の強化と奨学制度の充実といった改善施策を検証し、次年度以降の学生募集活動に反映させることで入学定員の充足に努める。 環境社会学部環境社会学科については、平成31年度より同学部における学生募集を停止することとし、平成30年2月1日付で届け出た。今後、同学部を廃止するまでの期間における在学生への教育条件の維持に努めていく。

（注）・ 「設置時」には、当該大学等の設置時（認可時又は届出時）に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、**当該大学に付された意見を全て記入**するとともに、付された意見に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行途中であれば「未履行」、履行済みであれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」の（年月）には、調査結果を公表した月（通常2月）を記入してください。（実地調査や面接調査を実施した日ではありません。）

(別添資料)

シラバス参照

授業科目名／Course title	総合臨床実習I
配当学科／Eligible Students	FR2018 / FR2017 / FR2016 /
学年／Student Year	3年次
開講学期／Semester	秋学期集中
担当教員／Professor ※オフィスアワーを確認する場合は担当教員を選択してください。	福祉総合学部教員
単位数／Credits	8
科目ナンバー／Course number	ZZZ999

授業の到達目標及びテーマ ／Goal and theme of the class	<p>・臨床現場において、臨床実習指導者の指導のもと、患者に対し理学療法評価を実施して、問題点の抽出・目標設定・基本的な治療プログラムの立案ができるようになる。</p> <p>・記録や報告が適切に遂行できるようになる。</p> <p>・関連職種の人々と連携し、対象者を理解することができるようになる。</p> <p>・既習の知識を統合して、実践的な理学療法を学ぶ。</p>
授業の概要 ／Overview of the class	<p>授業形態：臨床実習</p> <p>内容：これまでに学んできた基礎分野・専門基礎分野・専門分野の知識・技術を総合的に適用し、臨床の場面で患者を対象に、理学療法評価から治療プログラムの立案までの一連の流れを実施する。学内で得た知識・技術をどのような方法で対象者に適用できるかを、臨床実習指導者の指導・監督のもとで考え実践し報告する。また、臨床的観察力・分析力を養う。理学療法の業務、関連職種の人々との連携を学び、チーム医療の重要性と、職業人・医療人としての態度を身につける。</p> <p>英語科目名：General Clinical Practice I</p>
授業の計画 ／Lesson schedule	<p>本科目開始時までに関講されている必修科目を全て単位取得済み、または単位取得見込みであることを参加要件とする。また、本科目開始前に行われる客観的臨床能力試験（OSCE）の成績についても、参加基準の参考とする。なお、OSCEで満点の6割未満であった際には本科目への参加可否について検討される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床実習前セミナー（学内教育）：実習要項を用いて実習の構成、実習の意義、目的、方法、注意事項、緊急時連絡などを説明する。 また、臨床実習において求められる知識・技術の確認を行う。 【事前学習】実習に向けて、これまで学んだ知識・技術を復習しておく。 【事後学習】臨床実習の手引きを熟読し、臨床実習についての理解を深める。また、これまでに学んだ知識・技術を復習して身につける。 臨床実習施設における臨床実習：担当患者の決定、理学療法評価、他職種との連携、症例報告書の作成開始、理学療法の見学（1週目：45時間） 【事前学習】前日に、翌日の行動予定を計画しておく。 【事後学習】評価結果をまとめる。当日学んだことをまとめ、指導内容について理解を深めること。 臨床実習施設における臨床実習：理学療法評価、他職種との連携、症例報告書の作成、理学療法の見学（2週目：45時間） 【事前学習】前日に、翌日の行動予定を計画しておく。 【事後学習】評価結果をまとめる。当日学んだことをまとめ、指導内容について理解を深めること。 臨床実習施設における臨床実習：理学療法評価、他職種との連携、症例報告書の作成、理学療法の見学（3週目：45時間） 【事前学習】前日に、翌日の行動予定を計画しておく。 【事後学習】評価結果をまとめる。当日学んだことをまとめ、指導内容について理解を深めること。 臨床実習施設における臨床実習：理学療法評価、他職種との連携、症例報告書の作成、理学療法の見学（4週目：45時間） 【事前学習】前日に、翌日の行動予定を計画しておく。 【事後学習】評価結果をまとめる。当日学んだことをまとめ、指導内容について理解を深めること。 臨床実習施設における臨床実習：理学療法評価、他職種との連携、症例報告書の作成、理学療法の見学（5週目：45時間） 【事前学習】前日に、翌日の行動予定を計画しておく。 【事後学習】評価結果をまとめる。当日学んだことをまとめ、指導内容について理解を深めること。 臨床実習施設における臨床実習：理学療法評価、他職種との連携、症例報告書の作成、理学療法の見学（6週目：45時間） 【事前学習】前日に、翌日の行動予定を計画しておく。 【事後学習】評価結果をまとめる。当日学んだことをまとめ、指導内容について理解を深めること。 臨床実習施設における臨床実習：理学療法評価、他職種との連携、症例報告書の作成・完成、理学療法の見学（7週目：45時間） 【事前学習】前日に、翌日の行動予定を計画しておく。 【事後学習】評価結果をまとめる。当日学んだことをまとめ、指導内容について理解を深めること。 臨床実習施設における臨床実習：理学療法評価、他職種との連携、症例報告、理学療法の見学（8週目：45時間） 【事前学習】前日に、翌日の行動予定を計画しておく。 【事後学習】評価結果をまとめる。当日学んだことをまとめ、指導内容について理解を深めること。 臨床実習終了後セミナー：臨床実習での学びについて、報告および討議・意見交換を行う。（学内教育） 【事前学習】症例報告書をまとめる。臨床実習で学んだことを報告できるようにまとめておく。 【事後学習】他者の経験についてまとめ、自身との共通点・相違点を整理すること。 <p>「授業についての質問は研究室前の掲示でオフィスアワーを確認し、活用してください。」</p>
テキスト ／Textbook	関連資料の配布
参考文献・推薦図書 ／	

Reference works, recommended readings	『PT臨床実習ルートマップ』編集 柳澤 健(MEDHICAL VIEW/2011/4,860円) 『理学療法臨床実習とケーススタディ 第2版』シリーズ監修 奈良 勲 編集 鶴見隆正 辻下守弘(医学書院/2011/5,076円) 『理学療法ハンドブック 改定第4版』全4巻 編集 細田 多穂、柳澤 健(協同医書出版社/2010/23,760円)
試験及び成績評価/ Evaluation exam and grading	以下の2つの評価に基づいて行う。 (1)総合臨床実習Ⅰ指導報告書の総合評価や症例報告用レジュメ等提出物の評価:90点 (2)臨床実習前および終了後セミナーでの取り組み、報告内容および討論・意見交換への参加状況:10点
関連ページ/ Related page	

7 その他全般的事項

< 福祉総合学部 理学療法学科 >

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注)・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況 平成29年4月に教職員の能力及び資質向上に資する取り組みの推進を目的として、SD(スタッフ・ディベロップメント)委員会を設置した。また、FD(ファカルティ・ディベロップメント)に関しては、特定の委員会等を設置していないが、学務部において全学的に取り扱うテーマ等、FDの企画立案や年間スケジュールの設定を行い、各学部・研究科はそれらに基づき個々の課題解決に向け取り組んでいる。</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む) SD委員会は、事務局長、事務局次長、総務課長、人事課長、経理課長、教務課長、学務課長及び学部事務室事務長で構成し、平成29年度においては計7回開催した。同委員会で審議されたSDの実施計画等は、本学的意思決定組織であり、学長、副学長、学部長、部局長等で構成する城西国際大学執行部会議での審議、承認を経て、これを実施した。</p> <p>c 委員会の審議事項等 SD委員会は、以下の事項について検討、審議を行っている。 (1) 本学におけるSDの取り組み状況に係る事項 (2) SDに係る情報の収集及び分析に係る事項 (3) 教職員の能力及び資質の向上を目的とする研修等の企画及び実施に係る事項 (4) その他SDに係る事項</p> <p>実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ファカルティセミナー・ティーチングフォーラムの年間計画の策定と、それに沿った実施 ・ 出席管理システムを活用した出欠確認の簡便化 ・ 研究費等の充実 ・ 外部講師による研究倫理に関する研修 ・ 外部講師による科学研究費の獲得に向けた研修 ・ 学部執行部による授業参観と評価 ・ 優秀教員の表彰(Distinguished Professor Award 及びBest Young Teacher Award) ・ 新任教員への研修 ・ 海外研修引率教員に対する海外研修に係る心得、危機管理等についての研修 <p>b 実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SDは全学の教職員を対象とし、FDは教員を対象に全学と学部・研究科単位に区分して実施している。 ・ 学生による授業評価、研究費の充実、出席管理システムを活用した出欠確認の簡便化、科学研究費の獲得に向けた研修、Distinguished Professor Award 及びBest Young Teacher Awardは全学的に実施している。 ・ 学生による授業評価は、当事者以外の研究員・職員が実施している。 ・ 学部執行部による授業参観は、あらかじめ予告することなく実施している。授業参観において気づいた点等については、当該教員との面談においてフィードバックしている。 ・ 海外研修引率教員に対する研修は、すべての引率教員を対象として実施している。 <p>c 開催状況(教員の参加状況含む)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SD及びFD(全学及び学部・研究科単位)は、原則としてすべての教職員(FDにおいては教員)に出席を義務づけている。なお、公務等の事由によりやむなく欠席した教職員に対しては、後日、資料配布のほか当該SDもしくはFDを記録したDVDを視聴する機会を設けている。さらに、学部・研究科単位によるFDを欠席した場合は、記録等の資料を欠席教員に配布するとともに、当該学部の執行部教員がその内容等の周知を直接行っている。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・ 個々の授業における学生の教育効果と満足度の測定を目的として、授業開始から原則として3回目の授業時と最終授業時の2回にわたり学生授業評価を実施している。授業3回目におこなう授業評価は、受講学生の意見・要望をその授業期間内に反映させることを主たる目的としている。最終授業時の授業評価は、当該授業の教育効果や学生の満足度、教員の教授法や授業改善の必要性、シラバスに明示した成績評価の方法や基準の適切性等を確認することを主たる目的としている。学生授業評価の結果は、すべての授業科目について学部執行部が確認し、改善すべき事項等があれば直接改善を指示するとともに、年度当初の教員個々との面談の際には、授業の成果や課題、学生授業評価への対応等について確認及び指導を行っている。
- ・ 学部執行部が行う授業視察は、カリキュラムの中で当該科目が担う役割を果たしているか、シラバスに基づいた授業が展開されているか、授業マネジメントがなされているか、また、前年度（前学期）の学生授業評価が活かされているか等について確認している。

学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

上記「d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況」のとおり実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

科目ごとの結果を本学Webページで公開している。併せて、学部ごとの統計結果を冊子としてまとめたり、図書館に配置して閲覧できるようにしている。

(注)・「 a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「 実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 自己点検・評価等に関する事項

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学科の設置の趣旨は、科学的知見に裏付けられた新しい時代の理学療法を修め、豊かな人間性と深い洞察力、判断力を持ち、倫理的態度と行動をもって人の尊厳を守ることができ、福祉、看護、薬学の専門職と協働して地域の医療に貢献できるとともに、豊かな国際経験に裏付けられた国際的素養を身につけて国際社会にも貢献できる基礎的能力をもつ人材を養成することである。

この設置の趣旨に基づき、本学科のアドミッション・ポリシーに沿って入学試験を適正に実施した結果、本学科への入学者数は、本年度入学定員を充足するに至っていることから入学者の定員管理は適切に行われている。

また、本年度のカリキュラムの実施については、一部の科目において学習効果向上のために開講時期の見直しを行ったものの未開講科目及び廃止科目は無く、すべての科目を開講している。一方で、本年度の3月に急遽退職せざるを得ない専任教員が2名おり、4月からの補充には間に合わないため、学生への教育に支障が来さないように対応する。田上助教が単独で担当していた講義は、開講日程を調整して秋学期に新規採用予定の教員で対応する。石田教授が担当していた科目は、本年度のみ兼任講師として講義を行い、来年度4月に新規採用予定の教員で対応する。

なお、次年度の開講科目について、現在のところ一部で対応できていない科目があることから、本年度中の対応を進めている。

自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- ・平成30年10月 公表予定

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公表

認証評価を受ける計画

- ・平成35年4月1日、公益財団法人大学基準協会 大学評価申請書 提出予定

(注)・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(4) 情報公表に関する事項

設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表(予定)の有無 (有) ・ (無)

b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (平成30年 6月 1日 公表予定)

(注)・ 「 a ホームページに公表(予定)有無」には、5月1日時点で公表している場合、もしくは、今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

・ 「 b 公表(予定)有の場合の公表(予定)時期」には、「 a ホームページに公表(予定)有無」で「有」にマルを記入した場合のみ、時期を記入してください。